

東京都における人権施策に関する有識者懇談会（第4回）議事概要

出席：江上千恵子委員、大江近委員、繁田雅弘委員、戸松秀典委員、
本澤巳代子委員（以上5名）

○議題

(1)人権課題について

【主な意見】

- ・人権というものは個人が基本。しかし、現代社会では社会的関係が議論されるし、社会的関係なしには人権問題は考えられない。国連を中心に人権施策が行われ、人権の問題は個々の問題ではなく、世界的に関係している。その視点が必要ということで、3つの視点による分類を提案した。
- ・今、一人の人間が社会的関係なしで生きていけない。社会的関係なしでの個人は考えられないが、個人の方では如何ともし難い、生まれ持ってきたそういう状況が差別の対象となるものがある。
- ・行政施策を行う時に、基本理念として特に個人に注目する、社会的関係に注目する、国際的な関係要素を取り入れてやるこういう面が重要ではないか。
- ・課題の羅列は分かりやすいが、人権の擁護という本質から離れてしまう。羅列よりももう少し何か一定の要因を込めた分類、類型化した方がいいのではないか。
- ・各課題は表面化した時期が異なり、法整備、人権教育、啓発が同時期に始まった訳ではない。そこも踏まえる必要がある。
- ・インターネット、ヘイトスピーチは差別の手段。対象ではない。
- ・宗教の問題というと憲法の話が出てくるが、何もしないというのは外国人から見ると、宗教の迫害になる。
- ・外国人の宗教は分からない部分もあるが、外国人の尊重している生活上のお祈りとか、食事とか、外国人を尊重する、外国人の人権を尊重する形で一緒にある程度やれば政教分離に神経質にならなくてもやっていけないのではないか。
- ・外国人の異文化理解が十分でないと、やはり偏見差別を助長する要因となりうる。オリンピックをはじめ、これから色々な国から人がやってくるようになるという観点は必要。
- ・マタハラも最高裁の判決が出たが、これまで埋もれていて、言えずに差別を受けている人達が結構いるのではないかと。取り上げる必要はある。
- ・女性に対する暴力は現在でも根強く残っている問題。

(2)基本理念について

【主な意見】

- ・基本理念が年々そんなに変わってはおかしい。現在の理念を書き直す、書き加えるというところはないか。
- ・「世界に誇れる東京」、「誇れる」は理念なのか。もっと多様性のある、皆さんを受容するような懐の大きさが理念。多様性を受容するとかいったものではないか。
- ・医療の現場で自立とは本人にきちんと意見を言わせること。言うことによって、医療ではしなくていいことがでてくる。今、それをしていないので、平均以上の医療費を投入しても満足度が低い。本人から希望を受けて、これはしなくていい、その変わりこれをしてほしいという、それが自立だと思う。医療や福祉サービスを受ける人は、注文がつけられない。
- ・自己主張することが権利を守る。自由を守るということにつながる。日本ではなかなかそういう雰囲気が無い。
- ・自己決定するには正しい情報を得て、ある程度、助言や相談、体制を整えないと、本当の意味の自己決定はできない。できないところだけ、自己責任を言われても困る。

(3)施策体系について

【主な意見】

- ・東京都だけでやるのではなく、国、区市町村、民間などいろいろな主体と連携してやることになるが、主体の育成とか、行政以外と手を組むことによる取組も必要。

以上